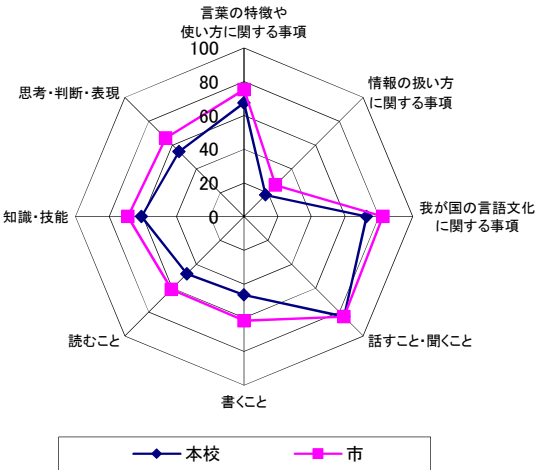


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	18.2	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	72.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	83.8	83.9	84.2
	書くこと	46.5	61.7	64.5
	読むこと	48.0	60.9	61.0
観点別	知識・技能	60.8	68.8	70.3
	思考・判断・表現	54.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

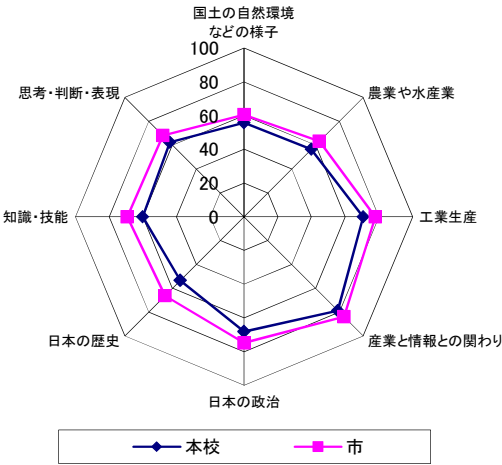
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市平均を7.8ポイント下回った。 ○第6学年に配当されている漢字の読みについての設問の2問は正答率が100%であった。 ●三字の熟語の成り立ちについての設問では、正答率が市平均を14.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、定着を図るために、授業中に小テストを繰り返し行ったり、家庭学習でドリル等を活用して取り組んだり、スモールステップの学習を継続していく。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化する。また、教科書に出てくる言葉を一つ一つ活用できるようになるまで、授業で取り立て扱う時間を増やしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市平均を8.3ポイント下回った。 ●説明文の内容を読み取る際、「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」設問では、正答率が市平均を6.1%と11.1ポイント下回った。	・情報活用能力が高くなるよう、複数の文章を並行して読むといった扱い方をする授業を増やしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市平均を9.7ポイント下回った。 ●和語、漢語、外来語といった語句の由来についての設問では、正答率が72.7%と市平均を9.7ポイント下回った。	・語句の由来や意味などについて、国語辞典や漢字辞典を活用して調べ、理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均とほぼ同じであった。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか」についての設問では、正答率が84.8%と5.9ポイント上回っている。 ●「話の内容を捉えているか」についての設問では、正答率が75.8%と市平均を8.0ポイント下回っている。	・学級活動や朝の会等での話し合いでは、司会者を輪番制にし、話し手の意図を考えながら発表内容をまとめる体験を重ねたり、司会者の様子を見て学んだりできるような場を設定する。 ・ペア学習やグループ活動で互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を15.2ポイント下回った。 ●「自分の意見とその理由を明確にして書く」設問では、正答率が60.6%と市平均を23.7ポイント下回った。 ●「指定された長さで文章を書く」設問では、正答率が45.5%と市平均を22.0ポイント下回った。	・制限時間内で字数制限のある文章を書くことへの抵抗が減るよう、作文練習をする機会を多く設定する。 ・意見と根拠を明確にして話すことについて、機を捉えて日常的に指導を行っていくとともに、意見と根拠の違いを明確にした文章の型を身に付けられるように丁寧に指導していく。
読むこと	平均正答率は、市平均を12.9ポイント下回っている。 ●物語の内容を読み取り、「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているか」についての設問では、69.7%と市平均を11.1ポイント下回っている。 ●「叙述を基に文章の内容を捉えているか」についての設問では、24.2%と市平均を35.0ポイント下回っている。	・物語文や説明文などの文章を自分の力で読み取り、全体の内容を捉える力を高めるために、読書習慣を付ける取り組みや読書量を増やす取り組みを強化する。 ・様々な種類の文章を読む機会を意図的に設定する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	55.8	60.5	65.8
	農業や水産業	56.6	63.3	66.0
	工業生産	70.7	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	78.8	83.8	76.6
	日本の政治	68.2	74.9	74.1
	日本の歴史	53.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	60.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	62.3	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

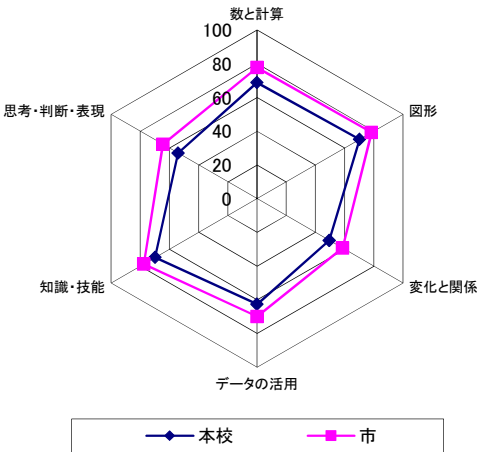
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	領域の平均正答率は55.8%で、市平均より4.7ポイント低い。 ●日本の周辺の海洋名についての設問は、市平均よりも7.6ポイント下回っている。 ●季節風についての理解をもとに、気候の特色を雨温図から読み取る設問は、市平均よりも3.9ポイント下回っている。	・日本周辺の国名や海洋名、気候の特色などに目を向けて、資料集や地図帳などの各種資料集を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し復習したりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	領域の平均正答率は56.6%で、市平均より6.7ポイント低い。 ●日本の主な食料の自給率について理解しているかの設問は、市平均よりも12.1ポイント下回っている。 ●米の品質を高める工夫について理解しているかの設問は、市平均よりも7.6ポイント下回っている。	・普段の授業において、資料から読み取れることを自分なりに解釈して理解する力を高めていく。 ・習得した知識を資料を活用して表現できるように、白地図やグラフなど複数の資料を読み取る機会を設けるようにする。
工業生産	領域の平均正答率は70.7%で、市平均よりも7.2ポイント低い。 ●日本の主な輸出品・輸入品について理解しているかの設問は、市平均よりも11.0ポイント下回っている。 ●自動車の部品を再利用する目的についての設問は、市平均よりも8.1ポイント下回っている。	・グラフを読み取り、移り変わりの様子について考えることに課題が見られるので、どの項目に着目すればよいのか、児童が分かるように指導し、資料の見方への理解を深めるようにする。
産業と情報との関わり	領域の平均正答率は78.8%で、市平均より5.0ポイント低い。 ●情報の発信と受診の注意点について考える設問は、市平均よりも8.1ポイント下回っている。 ●公害についての設問は、市平均よりも4.9ポイント下回っている。	・情報産業が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の政治	領域の平均正答率は68.2%で、6.7ポイント低い。 ●基本的人権の尊重の基本的な考え方についての設問は、市平均よりも11.6ポイント下回っている。 ●議会政治について、資料をもとに考える設問は、市平均よりも7.5ポイント下回っている。	・政治への関心が低いことが課題であるため、生活と政治を関連付けて考えられるように教材を工夫して指導し、政治を身近に感じられるようにする。 ・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けるようにする。
日本の歴史	領域の平均正答率は53.4%で、12.9ポイント低い。 ●鎖国についての設問は、市平均よりも29.8ポイント下回っている。 ●豊臣秀吉の業績についての設問は、28.2ポイント下回っている。 ○雪舟についての設問は、19.1ポイント上回っている。	・学年で身に付けるべき知識をより明確にし、児童が知識の確実な習得を図れるようにする。 ・各時代の主な出来事や特色、人物について、教科書や資料集などを用いて自分なりにまとめる活動を通して理解を深めるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.9	77.7	78.6
	図形	70.3	78.4	74.4
	変化と関係	49.5	58.7	53.0
	データの活用	62.6	69.9	57.2
観点別	知識・技能	69.8	77.5	74.0
	思考・判断・表現	54.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

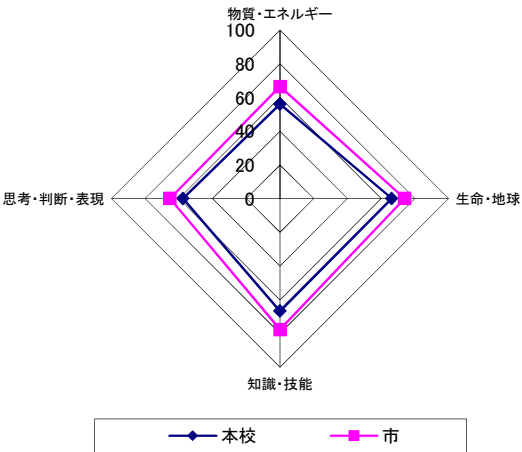
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を8.8ポイント下回った。 ○真分数×真分数の計算では市の平均を8.4ポイント上回った。 ●分数で倍を求める問題では市の平均を16.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数どうしや整数・小数・分数の混ざった計算の仕方を理解させ、基本的な計算ができるよう、ドリルなどで反復練習を進める。 ・課題解決の力が定着するよう、文章題などを数多く解き、数字の表す意味を考えて立式する学習を取り入れる。
図形	平均正答率は、市の平均を8.1ポイント下回った。 ○ひし形の面積の求め方を答える問題では市の平均を3ポイント上回った。 ●対称な図形に関する問題では市の平均より12.6ポイント下回った。	・さまざまな形の面積、体積を求める問題を多く解かせ、定着を図る。 ・角の大きさや立体の見方など、図形の基礎・基本を復習する。 ・過去に学習してきた内容を振り返り、素地的体験と知識を結びつけながら指導に当たる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を9.2ポイント下回った。 ○表から割合を求める問題では市の平均とほぼ同じだった。 ●速さの分速を秒速や時速に直す問題では21ポイント下回った。 ●割引後の値段を求める問題では6.3ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさ・速さについて復習し、その意味や求め方を理解させ、反復練習で定着を図る。 ・割合の文章題などを多く解き、問題の意味を考えて立式する学習を取り入れる。
データの活用	平均正答率は、市の平均を7.3ポイント下回った。 ○円グラフから割合を読み取る問題では市の平均を3.8ポイント上回った。 ●平均やドットプロットを使って考える問題では、市の平均を4.2ポイント下回った。	・グラフの活用の学習を多くし、グラフの見方やそこから分かることは何かなど、読み取れるように繰り返し演習する。 ・日ごろから代表値を用いて、その記録が全体の中で何を表しているのか考える学習を多くする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.1	66.5	66.3
	生命・地球	66.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	66.7	77.6	78.2
	思考・判断・表現	57.6	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均より10.4ポイント下回っている。 ○5年の学習内容「物のとけ方」では、「ミョウバンの水溶液のおもさを求める設問」において、市の平均正答率より8.9ポイント上回った。 ○6年の学習内容「水溶液の性質」に関する設問では、「未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する設問」において、市の平均正答率より3.6ポイント上回った。 ●5年の学習内容「ふりこのきまり」では、「実験操作の誤りを説明する設問」において、市の平均正答率より16.6ポイント下回った。また、「振り子の周期は振り子の長さによってきまることが説明する」記述問題では、市の平均正答率より9.2ポイント下回った。 ●5年の学習内容である「電流のはたらき」では、「コイルについて理解を問う設問」において、市の平均正答率より28.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・教科の重要語句は、カードなどを使って、聴覚・視覚両面から単元内や関連する他の単元で、繰り返し意識させ、理科用語の確実な習得を図る。 ・定期的に前学年での授業内容を復習したり、関連する内容を扱う際には今までに習ったことを想起させたりして、学習内容の定着を図る。 ・実験器具の扱い方について、定期的に指導し、定着を図る。 ・観察や実験では、操作する技能を身に付けるとともに、予想や仮説を基に解決の方法を発想したり、主体的に問題解決したりできるよう、活動前に視点を示して考えをもてるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均より7.7ポイント下回っている。 ○6年の学習内容「動物のからだのつくりとはたらき」では、「だ液によって、でんぷんがどのように変化するかを推測する設問」において、市の平均正答率より2.7ポイント上回った。 ○6年の学習内容「生物とかんきょう」では、「アメリカザリガニが水草を切ることによる影響を指摘する設問」において、市の平均正答率より0.7ポイント上回った。 ●6年の学習内容「植物のつくりとはたらき」では、「実験から対照実験の目的を指摘する設問」において、市の平均正答率より16.7ポイント下回った。 ●6年の学習内容「月と太陽」では、「月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘する設問」において、市の平均正答率より23.3ポイント下回った。	・対照実験については、条件は1つだけ変えることや何を見るための実験か意図を捉えさせ確認することで、理解の定着を図る。 ・結果の考察やまとめについては自分の言葉で記述する機会を必ず設け、考えを文字で表現する機会を増やす。 ・動物や植物のからだのつくりやはたらきについては、直接目にすることができないものが多いので、図や動画を利用して視覚に訴えることで確実な定着を図る。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現力や思考力が身に付くように指導している。	国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が市平均と同じぐらいであるが、他の領域では市平均を下回った。
言語活動の質的向上	各教科において発達段階を踏まえた指導のねらいを明確にし、読書活動を推進している。また、各教科において感じ取ったことを文章、絵、身体などを用いて表現するようにしている。	国語では、「書くこと」「読むこと」の領域で平均正答率は、市平均より大きく下回った。観点別で見ても、全教科市平均より下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習と生活についてのアンケート結果をみると、学年差はあるものの、児童が学習に対する必要性を感じながら、積極的に取り組む姿勢がうかがえる内容であった。しかし、6年生の学習内容定着度調査の結果からは、課題が多く見られ、基礎基本の定着を図る必要がある。そこで、基礎学力を上げられるように、次年度は学校課題について検討し、分かりやすい授業を展開できるように工夫していきたい。また、懇談会や個人面談等で、家庭学習の仕方について具体的に話合う時間を設け、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化を図り、学習の積み重ねができるようにしたい。